
暗い森のサーカス ヘタリアver.

忍冬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗い森のサーカス

ヘタリアver.

【Nコード】

N4564R

【作者名】

忍冬

【あらすじ】

ヘタリアで暗い森のサーカスをパロディしてみました。

本家さまに対する、ささやかな反抗でもあったりします（笑）

死にたいなんて簡単にいうもんじゃ無いです。

詩のタグ？をつけましたが、少しテンポに気を遣った文章、みたいな認識で見てくれればうれしいです。

呟↓ラッパ

死んだら全部終わっちゃいますから。

双頭の双子と異形の歌姫（前書き）

双頭の双子と異形の歌姫編。

双頭の双子と異形の歌姫

暗い暗い

森の奥

奥の奥の

暗い森

あるんだ そのサーカス……

今日も響く団長の声！

その肌は白くその髪は白く

双眸は血のように緋いのさ！

「さあ皆様お立会いお立会い！
今宵お目にかけるのは

世にも奇妙な人々だ

愉快的サーカス

楽しいサーカス

見たい奴だけ寄っといで！

命の保障はできないぜ！

心臓の弱い奴らはお断り！」

く隣の君く

双頭の双子

世界の罪を背負わされ

二人で生まれた双子の俺ら

平等に与えられたのは

二人分の命の焰

二人分の感情に

頭もしっかり二人分！

身体は二人でただ一つ

駆けるための足さえ持たず

繋げるだけの腕さえ持たず

叫ぶだけの舌でさえ

歌の流るる舌でさえ

抜かれ奪われ生まれた俺ら

嗚呼！

「死にたい 死にたい

? ? ? 死にたい 死にたい」

こんな命は要らなかった！

それでも……………

俺の隣にはいつも君がいた

俺が泣こうが

喚こうが

隣の君はいつだって

黙って俺にキスをして

黙って俺の涙を拭いた

「お前は俺のE d e nだから」

声にならない囁きを

嗚呼！

「生きたい 生きたい

? ? ? ? ? 生きたい 生きたい」

大好きな大好きな君の側で！

俺が死んでしまったら

君が死んでしまうから

君が死んでしまったら

俺が死んでしまうから

いつまでも生きて行こう！

世界の罪を終わらせよう！

いつかこの世界が

俺と君の永遠のE d e nになるまで

く見えない光く

異形の歌姫

月の出ない夜は好き

星の出ない夜は好き

嗚呼 暗闇は優しいマント

空に響いた産声は

世にも醜きA n g e lの呟

望まれ生まれてきた息女

望まれないで生まれた身体

片目は紅く！ 片目は崩れ！

顔は腐ってしまいそう

伸びるはずの手足さえ

ぐにやりと曲がりねじ折れて！

鉄格子のなかの日々

醜い瞳を見られぬように

黒い布で顔を隠して

醜き肢体暴かれぬように

シルクのドレスで身体を隠す

嗚呼！

「死にたい 死にたい

？？ ？ ？ ？死にたい 死にたい」

こんな身体朽ち果てしまえ！

でも……………

暗い森のなか

迷い込める 小柄な男

貴方の髪は黄金色

貴方の瞳は緑色

光を映していなかった……………

嗚呼 痩せ細った腕に抱かれて

私の歌を聞きながら

貴方は私に言いました

「嗚呼 君は俺のAngel」

そう！

貴方が愛してくれたから

私は天使になれました

醜く曲がった私の背には

輝く翼が生まれました

幾度か夜は繰り返し

幾度か逢瀬を繰り返し

私は興行 遠くの街へ

貴方は闘病 病院へ

今は二人かけ離れ

今は二人 鉄格子

でも……………

貴方と恋ができたこと

私の永遠の誇りです

嗚呼！

「生きたい 生きたい

? ? ? 生きたい 生きたい」?

白き翼は永遠に朽ちませぬ！

空に響けよ歌姫の歌

海に轟けよ歌姫の唄

森に紡げよ歌姫の咏

焰に届けよ歌姫の謳?

貴方と過ごした短い日々は

私の血となり肉となり

小さな小さな明かりになって

私の道を照らすでしょう！

双頭の双子と異形の歌姫（後書き）

本家さま聴いて思ったんですが、双子ってかなりの重症児ですね。

双子がお母さんの体のなかで別れきれずに、更に胴体しか持たず生まれてくる……

そして、生きている！

彼らはすごい奇跡の上に乗っかってるんですよ。

冷たいものを食べる青いけものとおまけ（前書き）

前回の続き…

届け、この思い。

冷たいものを食べる青いけものとおまけ

＼ロケットの肖像＼

冷たいものを食べる青いけもの

青いリボンをなびかせて

m a i d e nは微笑む

ロケットの枠の中から……………

皿の上の死体たち

それが俺のフルコース

君を愛してしまったからさ

身体を縛る拘束衣

それが俺のタキシード

君を愛してしまったからさ

それは……………

深窓に微笑む君を守る

兄に仕える使用人

君の兄さんの信用を

努力と苦勞と忠誠と

少しの嘘とで手に入れて

やっと君に伝えた言葉

返った答えは予想外

「愛しい貴方のその言葉

？ずっと待っておいりました」

その日から俺達は

君の兄さんの祝福のもと

毎日を共に生きていた

あの日までは……

彼らは誰も怨まずに

ただ金銭に執着したと

後に語っていたという……

物欲はいつか暴走し

屋敷は炎に包まれる

走れぬ君を抱き寄せて

手に手をとって駆け出した

盛る炎からは逃れたが

煙からはにげられぬ……

嗚呼もし冬でなかったら

あんなに燃えはしなかったろう

嗚呼もし雪が降らなくば

あんなに煙は出なかったろう

君の胸は煙を吸って……

すっかり機能を失って…

やがて純白の顔色で

漆黒の棺に横たわる

俺の誕生日に贈り物をと

チェーン付きのロケットを

手の平に握っていたと

後に兄さんから聞かされた

どうして

どうして

こうなった?!

君が土に埋められるなど

この俺が許しはしない……！

美しい想い出を守るため

俺が犯した大罪は……

嗚呼！

「死にたい 死にたい

????????死にたい 死にたい」

恐ろしいヒトを喰らうけもの！

しかし……

君の兄さんは一言も

俺を非難しなかった

ただ一つだけの持ち物を

俺の手の平に手渡して

見世物小屋に連れていく

俺を売った代金を

そっくり俺に渡して消えた

やがて幾らか時は過ぎ

俺のもとに残ったものは

君の笑顔を閉じ込めた

チェーン付きのロケット一つ

自由にならない指先で

そのロケットを開けるたび

乙女は微笑んでいる

嗚呼！

「生きたい 生きたい

????????? 生きたい 生きたい」

君との想い出を抱きしめて！

君と会った春の日を

君と歩いた夏の日を

君と語った秋の日を

君と別れた冬の日を

今はもうこの俺は

誰も愛せぬ青いけもの

だけれどそれで良かったさ

もう君以外愛せない！

（ 兎 ） ？ ？ ？ おまけ

白の団長

兎の色は何色か？

そう それは淡雪の白

兎の瞳は何色か？

そう それは紅玉の赤

静かな平和な村の家

おしどり夫婦の呪われた御子

神の悪戯？

世の因果？

髪は白く肌は白く

瞳は血の如く赤かった

邪悪な兎と密通したと

青い目の母は殺された

妻をつなぎ止められぬ

金髪の父は追放された

遺されたのは彼一人……

お前は兎の息子など

誰が信じたりするものか

邪悪な悪魔の仕業など

誰が本気になどするものか

少年の気は強かった

決意は誰より堅かった

俺が兎だというのなら！

狼だなんて敵じゃねえ！

俺が兎だというのなら！

俺は誰よりも高く飛ぶ！

俺が兎だというのなら！

俺は誰より速く駆ける！

少年は村を飛び出して

街で男に拾われた

彼の名前はフリッツ親父

世にも奇妙なサーカス団長！

やがて時は過ぎていき

少年は青年になりながら

世の奇妙を知っていく

世界中その罪を

一身に背負う

双頭の双子

怪物から天使へと

変貌とげた

異形の歌姫

淡き初恋儚んで

冷たいものを

食べるけもの

それは悲しい仲間たち！

それは愉快的仲間たち！

それは奇妙な仲間たち！

それは美しい仲間たち！

さあ今もいずこかで！

団長の声は響くだろう

全ての奇妙な人たちの

喜びと悲しみの歌声を！

今日も響く団長の声！

その肌は白くその髪は白く

双眸は血のように緋いのさ！

「さあ皆様お立会いお立会い！
今宵お目にかけるのは

世にも奇妙な人々だ

愉快的サーカス

楽しいサーカス

見たい奴だけ寄っといで！

命の保障はできないぜ！

心臓の弱い奴らはお断り！」

End……

冷たいものを食べる青いけものとおまけ（後書き）

なんとか書けました！

感想とか、よろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4564r/>

暗い森のサーカス ヘタリアver.

2011年3月17日10時52分発行